

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2093400014		
法人名	社会福祉法人 飯綱町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「わが家」		
所在地	長野県上水内郡飯綱町倉井2562-2		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2093400014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者さんの「普通の暮らし」とは何か、グループホームの理念である「主人公」になって頂くには、職員がどの様に接していけば良いのかを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉協議会が運営する民家改修型のグループホームである。地域になじみの家であることから訪問者も多く利用者は地域の住民として生活されている様子が垣間見られる。理念に掲げているように「地域に暮らす私が主人公」であり、まさに利用者自身がどう生活していきたいかを決めながら心地よい生活空間を作っている。昔ながらのこの地域で育った利用者には、炬燵があり知人が訪ねてくれるこの家に安心感があり、家にいるような感覚に陥る。自動火災報知器の設置もなされ、火の元は台所と職員は常に自覚し、十分に注意を払っている。この社会福祉協議会は認知症を地域で支えるを重点課題とし、ホームに併設し「認知症支援室」が設置され、地域の医師とも協力しながら包括支援センターと共に地域の支援体制の中心的役割を担っている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「どんな時でもこの地域で暮らす私が主人公」の理念の元、職員全員でその方の為、考えながらケアの実践につなげています。	「どんな時でもこの地域で暮らす私が主人公」と理念が掲げられ、職員が考え決めるのではなく、まず利用者を優先に利用者のそばに寄り添う。利用者がどうしたいのか、何をしたいのか利用者自身が決定できる支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区からの声かけにより(防災訓練・敬老会・お祭り・運動会)など、積極的に参加しています。毎日のように、散歩・買い物等で、地域の方とふれあう事ができます。	民家改修し、地域に根付いたホームであるため、大屋さんはじめ、地域の方が野菜を持って寄ってくれる。散歩に出かけると呼び止められ、お土産を貰う。また、地域の人から「お茶が出るかい」など言い、お茶を飲んで帰られる。利用者は散歩に出かけるときにはゴミ袋を持ちゴミ拾いをし地域貢献もしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に認知症支援室があり、介護相談、家族のつどい、各地域に出向き、認知症の学習会など開催しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに、運営推進会議を開催しています。その回ごとにテーマがあり、構成委員の意見をお聞きしながら、わが家のありのままを理解して頂き、意見を活かしています。	2カ月ごとに運営推進会議が行われている。包括支援センターの方、介護保険係の方、民生委員、地域の組長、家族の方も皆さんが都合し出席している。ホームの理解、意見交換を行う。年忘れ会とし家族や会議のメンバーと温泉に行き楽しく過ごしホーム理解にも務めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が立ち寄って、ありのままの生活を見て頂いて、お互いに情報を共有するよう努めています。	包括支援センターの職員は運営推進会議に出席以外にもホームに立ち寄り、ホームを中心に地域の認知症支援にも一緒に対応し地域での情報共有等に努めこの地域の中心的役割の担い手になっている。	

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで時間をもうけて、何が拘束にあたるのかを学習しています。玄関の施錠は状況により、ごまれに深夜帯だけです。	身体拘束はということが拘束にあたるのかを事例をもとに会議の中で学習をしている。精神的拘束、薬による拘束などに十分配慮し利用者に対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時にて学習会を開き、各自ケアにあたる時意識するように努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の場は法人として設けています。内容を繰り返し学び必要な時に、活用できるようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約・解約に立会います。質問をうけながら説明をするよう努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、要望・苦情などきちんと受け止め速やかに返答するようにしています。利用者さんの言葉にいつも耳を傾けております。	利用者の家族は、頻りに足を運ぶ家族、訪問回数の少ない家族等もおられるが訪問時に話をし家族の意見を多く聞けるように努めている。利用者が家事ができること等に家族は驚き、日々利用者が主役という基本姿勢の中、日常生活への対応ができています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人と意見交換の場が設けられています。課題などもその場で話し合い解決の方法を探しております。	毎月、職員のミーティングがあり意見を言う機会がある。また、法人との会議も年に1回は行われている。ホームには法人の課長や係長が訪れているため意見を言いやすい。職員の連携や仕事のやりやすさにも繋がっている。	

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課長が常に業務状況を把握しており、困り事なども聞いてもらえ、働きやすい職場を一つづつ作っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じた学ぶ機会は沢山あります。研修で習得したことを他職員に報告し、日々のケアの実践に役立てています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との人材交流がおこなわれています。職員会議へも出席させてもらい、日々のケアに活かしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前に使っていたサービス事業者と情報をもとに、その方に応じたお試し期間を設けて御本人を知る事から始めます。本人の思い・サインを集め、気付きを職員で共有します。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、傾聴に徹します。家族の思いを受け止めながら今まで続いて来た関係を断ち切らない支援を心がけています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良くお話をお聞きして、何が必要で何を優先させていくのかを判断しており、必要であれば他の事業者さんとも連携を取るようにはしています。		

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員という事を忘れず、その方の今持っている力を発揮できるように、お互いを認め合える関係づくりを進めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をお伝えしたり、またご家族に相談しながら、ご本人を支えていくようにしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域でこれまでに馴染んだ人だったり、場所だったり、途切れないように可能な限り支援ができるようにしています。	ホームの利用者は、この地域で過ごす利用者であるため、昔からの友達が訪ねに来たり、また友達の家に訪問することもある。美容室や馴染みの店に出掛ける。墓参りに出かけ、馴染みの家に出掛けるなど利用者の大切な物への支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのお仲間を認め合える場面が持てるように、支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればいつでも関われる体制はあります。日頃から、コミュニケーションがとれるように努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを大切にしています。分からない、困ったら、ご本人にお聞きして、支援させて頂いています。	利用者に寄り添い、利用者の声に耳を傾けることを大事にしている。今を理解できにくくとも文字を読み理解できる利用者は、行動カードを書いて今何をするかを理解し、落ち着き手順ができるようになった利用者もいる。一人ひとりの声を聞き対応、検討している。	

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、馴染みの暮らしも大切に、これからの生活にスムーズに入れるように努めます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態をしっかりと把握。出来ることを見極めながらの声かけに努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれが考える気持ちで、その方にとって一番良い介護計画を作成するよう努力している。	介護計画は3ヶ月毎に見直しをする。日々の状態をケース記録に残し、毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。ケアマネを中心に皆の記録からアセスメントを行い、介護計画の立て直しをする。家族からの意見は来所時等に話を聞き、家族の意向や利用者の意向に沿ったプランになるように工夫している。	介護計画の見直しは行われているが、長期目標、短期目標の達成期間の記載が不明瞭である。日々の記録の積み重ねの中で毎月新鮮な目でモニタリング、確認し継続プランとなっても根拠の明確となる記録の工夫を期待したい。実施経過などの記録についても日々の記録の工夫が望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や健康状態を把握するものがあります。記録・申し送りにて共有でき、家族にも記録等は公開できます。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのようなニーズにも、可能であれば柔軟に対応、支援をするように取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症支援室と連携を取りながら地域との繋がりをもてるようにしています。安心して暮らしていけるように支援しています。		

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何でも相談できる主治医が近くに居て下さる事でご本人・ご家族はとても安心されている。主治医とは良好な関係です。	かかりつけ医は、入居時に話をしホームの主診医に変わる方がほとんどである。主治医への受診は職員が毎月同行し、受診カードに医師と話をした内容について記録し職員間の共有を図る。家族からの問い合わせにも報告しやすい。必要時に家族の同行を求め今後の方針を確認することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で法人内の看護師とご利用者さんの健康状態の情報を共有されており、緊急時等にも速やかに対応できる体制がある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医との連携のもと、入院となっても、入院先のソーシャルワーカーとの情報を共有し早期退院にむけて考えていく。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にも状態により、ご家族とも相談しながら、進めていきます。	重度化指針が作られている。このホームで生活していた利用者が病院に入院し、家族の希望から住み慣れたこの家での最期をお送りたいとの希望からホームで看とりがなされた。本人も安らかに最期を迎え、家族に見守られ看とられた。その都度、家族、利用者の気持ちを確認し看とり支援の準備はある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりがあったりはまだですが、本年度中には救急救命の講習を受ける予定です。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回地区で開催されている防災訓練に全員で参加して、防災の意識を高めています。ホーム内でも避難訓練も行います。	消防計画書が今年度、作成された。それに基づき、地域住民の災害訓練への参加、ホームとしての避難訓練が明記されている。今後この計画に沿って避難訓練を行っていく予定であるという。毎年、地域の災害訓練時には一緒に参加されている。自動火災探知機が設置され安全への配慮がされている。	防災計画書の作成により、防火管理者が配置された。地域協定も結ばれており、今後ホームを中心とした避難訓練時には住民参加での訓練を行い、また夜間訓練も考慮し実際の職員、住民の役割等の検討が望まれる。

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切に思う心で接する事ができています。こちらが得た個人情報是他者に漏らす事のないよう注意しています。	一人ひとりの気持ちを大切に接しているが「寂しいからそばにいて」など言う利用者に対して他利用者が「職員に大変な思いをさせている利用者」と思わせてしまっていることへの言葉かけの難しさを感じながら利用者のプライドを傷付けない支援など利用者から気付かされることも多いという。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思い、希望を可能な限り実現出来るように支援しています。自ら選択できるような声掛けを行うようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を忘れず、その方第一で支援していくようにつとめています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・好みなどで、選択できるように見守ったり、声掛けにて支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、買い物、食事作り、後片付けのうちどこかに必ず職員が関われるように、支援しています。	献立は利用者が皆で作る。毎食事に皆で何を食べたいか話をし買い物に出かけ一緒に食事作りをする。買い物も買い物メモを利用者がもち、買い物に集中できる工夫もしている。食事が終わると片付けを始める利用者もあり、家族のような食卓を囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方にあつた量、かたよらない献立に配慮しています。		

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアはそれぞれの方で違った支援をしている。口腔ケアチェック表も活用している。義歯は週に一度、洗浄液にて消毒、必要時歯科通院にも対応します。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンはチェック表より把握、間隔なども気にかけて、そっと声掛けもしています。尿とりなどうまく出来ない方には、配慮しています。	排泄は自分でトイレに行く利用者がほとんどである。排泄パターンをチェックし失禁等への対応のため声がけする方もいる。失禁パンツで対応できる利用者も多少の支援で自立されている。入院後オムツ使用からリハビリパンツとなり本人の安心につながっている方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールはチェック表より把握しています。水分・食材・体操なども挑戦しています。出来る限り、下剤に頼らずにお過ごし頂きたいと努めています。(主治医と相談しながら)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができます。その日の体調に合わせて清拭だったり・足浴もできます。夕方から(年間通して)の入浴です、ゆっくり入って頂いています。	入浴は毎日夕方4時頃から5時半頃までにはいる。。毎日入浴される方がほとんどである。夕食前にゆっくり入っている。日常生活に合わせた時間帯でもあり自然と入浴時間を理解され自分で準備する利用者もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れるように日中の活動に配慮しています。午後にはカフェインの多い飲み物は避けています。疲れた様子の時には休んで頂くようにし支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの服薬について把握しています。主治医と相談しながら内服薬はできるだけ少なくできるように連携をとっています。		

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自、趣味・やりたい事が出来るように支援しています。できる事が一日の生活の中で自然にできる方も多く、見守っています。職員からの感謝の言葉もかけています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出は多いです。本人の行きたい、出掛けたいという希望にそった支援にて、買い物・ドライブなどにでかけます。帰宅支援・散歩・友人宅訪問・外食など、個別にしています。	日常的に散歩は、毎日出かけている。利用者が行きたいと思うところには出かける。家に帰りたいという方は家族に連絡し連れていくことで安心し、お墓参りに毎年出かける利用者もいる。紅葉狩りや花見、温泉などにも出かけ家族、地域の支援を受け外出されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理(少額でも)できる方はお金を持って頂いています。支払いも見守っています。家族よりお預かりしたお金で必要時、個別に支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に使えます。使い方など分からない時など支援します。手紙も個人宛に配達され返事を出す時の支援、見守りもします。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの方のくつろげる空間づくりを目指しています。必要以上に立ち入り過ぎないで見守っていく事も大切。季節感が感じられる飾り付けも工夫しています。	皆が集まる居間には炬燵が作られ、日光が燦々と当たるガラス越しには椅子が置いてある。ゆっくり食後を過ごし、屋外に目を向け季節感が感じられる。自分の家の炬燵にあたり、くつろぎ、食事等を少し人数の多い家族と団欒している穏やかな空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集える場所、部屋のあちこちにイスがあったりで思いおもいに過ごす事ができるスペースがある。		

外部評価結果(グループホーム「わが家」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の「わが家」としてご自分の慣れ親しんだ物が居室にあり、ご自分なりに居心地よく飾り付けや整理されている方もおられます。職員もお手伝いの声掛けもしています。	昔ながらの畳の部屋に衣類が掛けてあり、ふすま越しには人の気配が感じられ安心できるようすが窺える。畳の生活、ベットの生活、それぞれ自宅にいるように家具が備えられ整理されている。見当識を解決するための張り紙などの工夫が安心感につながって利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり、出来ること、やりたい事、分かる事を探しながらの支援を心掛けています。		